

わが

子育てしやすい社会を大船渡市で「子育て応援のまち おおふなと」の挑戦

大規模林野火災からの再生へ歩みを進める大船渡市

本市は、岩手県の南東部に位置し、三陸の豊かな海と美しい山々に囲まれた港町です。気候は、冬季でも積雪はほとんど見られず温暖で、三陸復興国立公園の代表的な景勝地の一つとして知られる碓氷海岸をはじめとした美しい景観を楽しむことができます。

令和7年2月に発生した大規模林野火災では、全国各地から温かいご支援を頂きましたことに心から御礼申し上げます。皆さまから頂いたご支援を糧に、市民、事業者、行政などが力を合わせ、「オーラル大船渡」で被災森林の復旧のほか、暮らしの再建やなりわいの再生に向けた取り組みを着実に進めています。

また、持続可能な発展と未永く

幸せに暮らし続けられる本市の実現に向け、「地元の産業を強く元気に」「若者の活躍でみんな笑顔に」「支え合ってみんな幸せに」を「未来への三本柱」と位置付け、産業振興、安心安全なまちづくり、交流人口拡大などの各種施策を着実かつ積極的に推進しております。

本市の子育て支援

次代を担う子どもは「市民みんなの宝もの」です。全ての子どもが健やかな成長と子どもを産み育てたい方々を社会全体で支え、その願いをかなえることが極めて重要であるとの考えの下、「子ども・子育て支援の充実」を重点施策と位置付け、各種支援の充実に取り組みしております。

本市は、子育て世帯の経済的負担の軽減とともに、仕事と家庭の両立を支援していくため、令和7年度から「保育料の完全無償化」を実現しました。また、妊婦健診

受診時に生じる自己負担相当額を助成する「妊婦健診あんしん+」や、子どもの出生を社会全体で祝いする「おおふなと子育て応援祝金」の支給などの市独自支援のほか、県立病院や近隣市の助産院などとの連携の下、産後ケア事業の拡充に取り組んでおります。

この他にも、高度医療を必要とするハイリスク妊産婦への移動および宿泊費支援、医療的ケア児のいる家庭への在宅レスパイト支援など、個々のニーズに対応しながら、妊娠、出産、子育てに至る切れ目のない子育て支援サービスを展開しております。

子育て支援はまちづくり

子育てにやさしい社会の実現には、日常生活で関わる地域や職場の方々の協力や、温かな配慮とあった、社会全体で子育てを応援していく機運の醸成が大切であると捉えています。

本市は、こども家庭庁の提唱する「こどもまんなか」の趣旨に賛同し、子どもと子育て世帯を社会全体で応援する取り組みを進めるため、令和6年9月に「こどもまんなか応援サポーター」を宣言し、



「こどもまんなか応援サポーター」を宣言



岩手県内で初めて「こどもまんなかアクション」リレーシンポジウムを開催

令和7年11月には、こども家庭庁との共催による『「こどもまんなかアクション」リレーシンポジウム in おおふなど』を岩手県内で初めて開催するなど、子育て世帯向けのイベントの開催、子育てに配慮した取り組みを行う店舗

等の拡大などの子育て応援の取り組みを推進しています。

こうした取り組みを行う上では、行政機能もより気軽に手続きや相談をできる環境づくりが必要であることから、令和6年7月に母子保健と児童福祉を一体化して切れ目のない伴走型支援を行う「大船渡市こども家庭センター（愛称DACCOCO）」を市内中心部の商業施設内に設置するとともに、天候に関わ

らず遊べる屋内の遊び場を併設するなど、より市民の暮らしに身近な所に行政機能や交流機能を兼ね備えた子育て支援の総合拠点を開設しました。

これにより、買い物のついでに立ち寄れる気軽さと利便性から、子育て世帯からの相談件数が増大しました。また、屋内の遊び場も開設1年で利用者5万人を達成するなど好評を博しております。さらには、保護者同士の交流や商業施設内の集客増といった中心市街地におけるにぎわい創出にも好影響を与えております。

子どもたちの笑顔が生まれる場所は、そこに集う大人たちにも活力を与え、地域全体の雰囲気

を明るくする。そうした積み重ねが、子育てしやすい社会の実現につながり、ひいては将来的な人口減少対策にも寄与する可能性を秘めていると捉えています。

本市では、保育や教育、経済的支援などの子育て支援策を総合的に充実し、家庭や社会が一体となって子どもの成長を支える子育て応援の機運を地域全体へ波及していく取り組みを進めています。

プロフィール

- ◆ 面積 322・51km²
- ◆ 人口 3万1100人
- ◆ 世帯数 1万4613世帯

〔将来都市像〕「ともに創る やすらぎに包まれ 活気あふれる 三陸のにぎわい拠点 大船渡」

〔まちの特徴〕リアス海岸が特徴的な碓石海岸や五葉山県立自然公園など、自然豊かで風光明媚なまち

〔市町村合併〕平成13年11月15日、大船渡市、三陸町の2市町が合併



大船渡市長 瀧上 清



〔特産品〕サンマやアワビ、カキ、ホタテ、ワカメなどの三陸産海産物、日本酒、ワイン、ビール

〔観光〕碓石海岸、世界の椿館・碓石、大船渡市立博物館、大船渡市魚市場、キャッセン大船渡、五葉山

〔イベント〕大船渡碓石海岸観光まつり、三陸・大船渡夏まつり、大船渡市産業まつり、大船渡新春ロードレース大会、三陸・大船渡つばきまつり

こうした取り組みにより、多くの方々には個々の価値観やライフスタイルの中で、子どもを産み育てることがよりポジティブなものとして捉えてもらえるよう、加えて若者視点での暮らしやすいまち、大船渡市で活躍したい、定住したいと思える地域社会の実現に向け、今後も子ども・子育て支援をはじめとした各種施策を積極的に進めてまいります。

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

住み続けるほど 好きになる街をつくる!!

取手市は、都内から茨城県の玄関口に位置し、JR常磐線で上野駅まで最短33分という立地の良さから、都市の利便性と豊かな自然が交差するまちとして多くの方に選ばれ、近年は日本人を中心として転入超過が続いています。

市内には東京藝術大学のキャンパスが立地し、市民・芸大・行政が一体となり「アートのまち」として、こどもから大人まで日常の中で芸術に親しむことがで

きる環境を整えており、郷土愛の醸成にもつながっています。

また、「とりで利根川大花火」を毎年8月に開催し、市内外から約12万人の方にご来場いただいています。私が市長に就任してから、花火だけで

はなく、ドローンショーも行っており、夜空に浮かぶ光のオブジェに多くの方が驚きの表情で、次は何だろうと楽しみながら見ていただいています。

まちの活性化

本市では、将来に向けてまちの活力を創出する新たなプロジェクトを進めています。

一つ目は、取手駅西口駅前の新たな顔となるプロジェクトです。取手駅は東京方面への始発駅であるというメリットがある一方で、西口駅前には古くからの市街地が広がり、安全で快適な都市環境とい

う観点からは課題がある状況でした。そこで、土地区画整理事業による都市基盤整備を進め、令和6年には駅前交通広場を刷新し、円滑な交通動線と安全で安心な歩行



複合公共施設のイメージパース

空間を整備しました。

また、西口駅前では、土地利用の高度化を図るべく、地権者の皆さまが市街地再開発事業の実現化に向けた作業を進めており、市では、再開発ビル内に図書館機能を核とした複合公共施設の整備を目指しています。新たな施設には、広々とした学習・閲覧スペースや開放感のある居心地の良い空間などを整備し、市民の皆さまが快適

に過ごすことができる魅力ある都市空間を創出していきたいと考えています。

二つ目として、市内中央部の桑原地区では、組合施行の土地区画整理事業による約65haの広大な土地を生かした新市街地の創出を目指しています。このプロジェクトには、平成19年に地元地権者が取手市議会に「桑原地域市街化構想の早期実現」の請願を提出した際、当時市議であった私が紹介議員として関わっています。コロナ禍を経て、社会経済情勢の変化や物価高騰など、多くの課題に直面していますが、一つずつ解決し、本市の新たな顔となるよう進めています。

こどもをまんやかに

冒頭で郷土愛について触れましたが、本市に住み続けたいと思ってもらえることが本市に活力をもたらし続ける鍵になると考えています。

そこで本市で子育てをしたいと



夜空を彩るドローンショー



生まれた赤ちゃんを祝う「おめでとうばこ」

感じていただけるよう、こどもの専門部署を設置し、各種事業に取り組んでいます。

まずは令和7年10月から不妊治療と無痛分娩の補助制度を始めました。妊娠や出産に向けて、ご

夫婦がさまざまな選択肢を持てるようにサポートをしていきたいと考えています。

また、「生活協同組合パルシステム茨城 栃木」との連携協定による出産の「おめでとうばこ」を届ける事業を始めました。この中には、赤ちゃん期に役立つ子育てグッズを入れており、全てのこどもたちの健やかな成長を願って取り組んでいます。

さらに、本年9月からは見守り支援員による定期的な訪問とおむつなどの子育て品を届ける事業も始める予定です。市としては、届ける、補助するといったことだけでなく、ぬくもりあるサービスを提供していくことで、ちょっとした異変に気づいたり、ご家庭の

方々が悩みや不安を気軽に相談できる体制を構築し、全てのこどもたちの健やかな成長につなげていきたいと思えます。

将来のエリア形成を見据えて

私は、取手市議を約10年、茨城県議を約10年務めてから市長に就任しました。市議に立候補する際、「住み続けるほど好きになる街をつくる!!」というキャッチフレーズを掲げ、この言葉を私の忘れぬ信念としています。そのためには、本市に住む皆さまにとって誇らしく感じる事ができる愛着



小堀（おおほり）の渡しと取手駅周辺の街並み

の持てるまちとしていくことが大切です。また、本市のみならず、茨城県南エリアにはさまざまな魅力があります。平成17年に常磐線の西側につくばエクスプレスが開業して以降、沿線の守谷市、つくばみらい市、つくば市といったエリアが若い世代を中心に注目されていますが、常磐線沿線も高校の選択肢が多いことなどから近年人気があり、茨城県南エリア全体のさ

プロフィール

- ◆ 面積 69・94 km²
- ◆ 人口 10万5759人
- ◆ 世帯数 5万3122世帯

〔将来都市像〕ぬくもりとやすらぎに満ち、共に活力を育むまち とりで
〔まちの特徴〕東京駅まで最短40分という利便性の高さに加え、水戸街道の宿場町としての象徴である旧取手宿本陣や東京芸大のキャンパスがあり、歴史と文化が融合したまち



取手市長
中村 修



〔市町村合併〕平成17年3月28日 藤代町と合併

〔特産品〕ビール、漬物、トマト、あられ・煎餅、地酒、米、即席麺

〔観光〕旧取手宿本陣染野家住宅、小堀の渡し、市内随所にある壁画によるまちづくり作品

〔イベント〕鯉のぼりプロジェクト in 岡堰、とりで利根川大花火、サイクルアートフェスティバル、とりで利根川たこあげ大会など

らなる活性化が期待できると考えています。そのためにも、西口駅前における市街地再開発事業と桑原地区の新しい街地創出事業を柱とした市街地整備を進めていくことで市内外から多くの方が訪れる地にしていくということも県南地域の発展における一つの鍵になると考えています。今後も近隣自治体と連携しながら、各種施策に取り組んでまいります。

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

郡上創生！未来を拓く 人口減少を乗り越える次世代へのシフト

清流と伝統のまちが直面する
「出生数100人」の現実

岐阜県のほぼ中央に位置する郡上市は、1030・75km²の広大な面積の9割を森林が占め、海抜1000mから1800mに及ぶ起伏に富んだ地勢です。清流長良川の源流となる豊かな自然に恵まれ、ユネスコ無形文化遺産に登録された日本三大盆踊り



日本三大盆踊りの一つ「郡上おどり」

された日本三大盆踊りの一つ「郡上おどり」の熱狂に代表されるように、古くからの歴史や伝統文化が人々の暮らしの中に色濃く息づいています。今、この穏やかなまちの裏側で、極めて深刻な危機が進行

しています。平成16年の町村合併時に4万8000人を超えていた人口は、令和7年には3万7000人を割り込みました。また、令和6年度の出生数は138人、本年度の出生数の見込みはさらに落ち込み、「100人」というかつてない人口減少、少子化の波が想定を超えるスピードで押し寄せています。もはや足元の対症療法ではこの危機を乗り越えることはできません。市政のかじを「次世代」へと大胆に切り替える時が来ています。

「適正なサイズ」へのシフト

本市は、七つの町村が対等に合併した背景もあり、各地域にあった公共施設や事業は整理されないうまま引き継がれ、その結果、施設の維持管理費がじわじわと市の財政に重くのしかかってきました。

1日に数人しか利用者のない小規模な図書室が旧町村ごとに残されていたり、ほとんど稼働していない斎場がそのまま残されていたりと、施設の統廃合は先送りされてきたのです。

本年度は、10年、20年先の未来を見据えた「第3次郡上市総合計画」スタートの年です。当計画では人口減少という現実を正面から受け止め、令和17年の目標人口を3万人と決めました。人口減少を前提とした「適正なサイズ」のまちづくりへシフトを図りつつ、住民一人一人の幸福度を高める必要があります。

新しいものを作る時は喜ばれる一方で、既存のものを「小さくする作業」には必ず強い反発が伴いますが、市民と危機を乗り越える気持ちで共有しながら同じ方向へ



西日本最大級のスキーエリア

向かう。これを実践できない限り、地方都市の明日はありません。次世代の若者たちに持続可能な故郷を手渡すため、大きな覚悟を持って新しいまちづくりへとかじを切ってまいります。「心満ちる心おどる 心地よいまち 郡上」を将来像に掲げ、未曾有の危機を希望に変える「郡上創生」への挑戦が始まっています。

自ら立ち上がる

「新青年団」の躍動

令和6年4月の市長就任以来、まちの未来を守るため、合併から



「新青年団」が躍動したミチトキテン

行政が姿勢を示せば、まちも動き出します。令和7年度、本市の若者たちが素晴らしい挑戦を見せてくださいました。かつてまちをけん引した青年団などの組織が縮小、消滅する中、20代、30代が中心となり、行政の補助金

続く事業の徹底的な見直しを断行しました。波風の立たなかつた水面に一石を投じる覚悟で、長年続けてきた高齢者への敬老祝い金や100歳長寿の祝い金などを廃止しました。厳しいお声に真摯に向き合いながら「このまちを孫や子の世代に誇れる姿で残したい」と訴え続けると、「自分たちのことより、あの子たちのために」と、温かなご理解を示していただきました。皆さまのご協力で捻出した財源は、子どもたちの給食費完全無償化や、本市産材を使って家を建てる住宅建築補助など、若者世代へ集中的に投資しています。これは単なる経済的支援ではなく、「このまちで共に生きていこう」という若者たちへのメッセージです。

若者が希望を持ってこのまちを選べるよう、生活基盤の再構築も急務です。本年度、私たちは象徴的なプロジェクトを始動させます。「旧大和西小学校」の跡地を、若者子育て世代のための魅力ある「新たな暮らしの拠点(宅地)」へと再生させる事業です。早ければ令和11年度の分譲開始を目指し、自然と調和した住環境を整え、移住・定住の強力な受け皿とします。

同時に、地域医療の分野では急

に頼らない食と体験の祭典「ミチトキテン」を開催したのです。彼らは自ら協賛金を募り、SNSで外の世界とつながり、4000人もの人々をまちに呼び込みました。私は彼らを、令和の「新青年団」と呼んでいます。行政がお膳立てをする時代から、若者が自らハンドルを握り、シニア世代がこれまでの知恵と経験でその背中を温かく見守る。そんな全世代が取り合う新しい自治の形、まさに「住民自治」が今、本市で芽吹いています。

「ここで暮らしたい」をカタチに

激な高齢化により医療従事者の確保が難しくなる中、医療機器と通信機材を搭載した「医療MaaS」車両を導入しました。テクノロジーの力と官民の連携を最大限に活用し、今後10年、20年先を見据

プロフィール

- ◆ 面積 1030.75 km²
- ◆ 人口 3万6515人
- ◆ 世帯数 1万5355世帯

〔将来都市像〕心満ちる心おどる心地よいまち郡上

〔まちの特徴〕長良川源流の清らかな水と緑豊かな森林に恵まれ、郡上おどりなど伝統文化が息づくまち

〔市町村合併〕平成16年3月1日、八



郡上市長
山川弘保



幡町、大和町、白鳥町、高鷲村、美並村、明宝村、和良村の7町村が合併
〔特産品〕郡上鮎、和良鮎、ひるがの高原だいこん、明宝ハム、郡上本染、食品サンプル
〔観光〕郡上八幡城、清流長良川あゆパーク、ひるがの高原、スノースポーツ、アウトドア体験
〔イベント〕郡上おどり、白鳥おどり、白鳥の拝殿踊り、ミチトキテン



医療機器と通信機材を搭載した「医療MaaS」車両 外観



「医療MaaS」車両 内部

えた持続可能で安心できる地域医療体制の構築を目指しています。

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

子どもたちの笑顔が輝き、次世代へとつなぐ 豊かな食と農く香南市の未来創生く

はじめに

香南市は、平成18年に5町村（赤岡町、香我美町、野市町、夜須町、吉川村）が合併し、本年に市制20周年の節目を迎えました。

本市は、高知市の東部約20kmに位置し、市の南部地域は、太平洋に面する自然豊かな景観の



手結港可動橋

海岸部と肥沃な平野部が東西に広がり、中部地域は低山が連なる中に里山環境が広がっています。また、北部地域は標高300～600mの四国山地の一部を構成し、これらの山々を源流とする物部川など、水と緑が豊かな地域です。



絵金蔵

高知の空の玄関口である高知龍馬空港にも隣接し、交通の利便性と豊かな自然が共生しています。

市内には、広大な敷地で動物たちが生き生きと過ごす「高知県立のいち動物公園」をはじめ、幕末の絵師・金蔵の芝居絵屏風を保管・展示する「絵金蔵」、土佐の伝統的な造りを取り入れた平成の芝居小屋「弁天座」、日本でも珍しい跳上式の可動橋「手結港可動橋」、そし

て美しい砂浜と開放的な芝生広場が広がり、県内外から多くのレジャー客が訪れる「道の駅やす」に隣接した「ヤ・シイパーク」など、歴史、文化、レジャーの魅力が凝縮されています。

切れ目のない支援で「選ばれる」子育てのまちへ

令和7年より開始した「第3期香南市子ども・子育て支援事業計画」に基づき、妊娠期から出産、そして就学後まで、ライフステージに応じた切れ目のない支援体制の構築に全力を注いでおります。

具体的な取り組みとして、産後ケア事業（助産師による自宅訪問、ショートステイ、デイサービス）や総合子育て支援センターによる子育てのサポート、令和6年からはこども家庭センターの開設により

相談体制を強化し、孤立しがちな育児不安に寄り添う支援を拡充しています。また、経済的負担の軽減策として、0歳～高校3年生の医療費助成に加え、3歳～5歳の給食費の軽減や保育所などへの同時期入所の第2子の保育料の無償、18歳未満の子どもが3人以上の多子世帯への第3子以降の保育料の軽減を行っています。

さらに、保育所・幼稚園・こども園から小学校へ、小学校から中学校へと0歳～15歳の子どもの発達段階に応じた系統的な教育を進めるため、平成22年度から保幼小中連携教育にも取り組んでいます。子どもたちが安全に、そして伸び伸びと過ごせる居場所を確保することで、保護者の皆さまが安心して働き、本市で暮らし続けるためのサポートに力を入れています。

おいしくて安心な「特別栽培米」による食育と地産地消の推進

本市は「食」を通じた教育、すな



小学校の給食に特別栽培米が提供されている様子②



小学校の給食に特別栽培米が提供されている様子①

わち食育においても、全国に先駆けた特徴的な取り組みを行っており、その象徴は、市内小中学校と公立保育所・幼稚園・こども園の給食への「特別栽培米」の導入です。

令和7年度から本格的に導入を開始したこの事業は、農薬や化学肥料を抑えて栽培された安心な地

元産米を子どもたちに提供することで子どもたちの健康づくりと食育を進めるものです。本年においても、地元農家の方々の連携を一層強め供給体制の拡大に取り組んでいます。

この取り組みは、単に安全な食材を提供することにどまりません。給食の時間を通じて、自分たちの住む地域の豊かな土壌と、育まれる生命、そして生産者の情熱を直接肌で感じることで、故郷への愛着を醸成する「生きた教材」としての役割を担っています。令和9

年に向けては、この特別栽培米の活用を軸に、他にもさまざまな品目でも環境にも優しい栽培方法の拡大を推進してまいります。

豊かな資源を次世代へつなぐ、産業と文化の振興

本市は、温暖な気候を生かした園芸農業も非常に盛んで、生産量日本一のニラのほか、夜須のフルットマトやエメラルドメロン、ルナピエナスイカ、そして山北みかんなど、全国的に高い評価を頂いているブランド産品が数多くございます。これらの地域資源をさらに磨き上げるため、令和7年度よりスタートした「第3期香南市産業振興計画」では、スマート農業の導入支援や、地域おこし協力隊と連携した「6次産業化」による高付加価値化を進め、若者が希望を持って農業に携われる環境整備を進めてまいります。

また、本市を彩るイベントとして、県の無形民俗文化財である「手結盆踊り」や、幕末の絵師・金蔵の屏風絵を商店街の軒下に展示する「土佐赤岡絵金祭り」など、多様な魅力的な文化も息づいています。これらを「点」ではなく「面

でつなぎ、バリアフリー観光の推進やデジタル技術を活用した情報発信を通じて、国内外から選ばれる交流拠点づくりを推進してまいります。

本市は、市民一人一人が輝き、次世代に希望をつなげ「香南市にずっと住み続けたい」と実感できるまちを目指し、これからも取り組んでまいります。

プロフィール

- ◆ 面積 126.46km²
- ◆ 人口 3万2163人
- ◆ 世帯数 1万5542世帯

〔将来都市像〕誰もが安心して暮らし、働き、子どもを育てることができるまちに！

〔まちの特徴〕海・山・川の豊かな自然と歴史文化が息づく、自然と便利の「ちょうどいい」が詰まったまち

〔市町村合併〕平成18年3月1日、赤岡町、香我美町、野市町、夜須町、吉川村の5町村が合併



香南市長
濱田豪太



〔特産品〕ニラ（生産量日本一）、山北みかん、ルナピエナスイカ、エメラルドメロン、どろめ、シイラ、など

〔観光〕高知県立のいち動物公園、絵金蔵、弁天座、ヤ・シイパーク、手結港可動橋、かがみキューリップ園、のいちあじさい街道

〔イベント〕土佐赤岡絵金祭り、手結盆踊り、土佐赤岡どろめ祭り、香南市みなこい港まつり、浅上王子宮山北棒踊り、若一王子宮秋の大祭



手結盆踊り

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。